

国立病院機構熊本医療センター

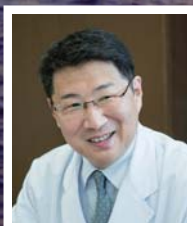
2018 No.247



発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501 (代)  
FAX (096) 325-2519  
連携室直通 TEL (096) 353-6693  
連携室直通 FAX (096) 323-7601

# くまびょうNEWS

## 新年のご挨拶



国立病院機構  
熊本医療センター  
院長 高橋 毅

有明海からの日の出

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は登録医の先生方をはじめ、医師会および歯科医師会の皆さまには、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、新たな執行部体制ではありましたが病院診療に大きな変化もなく、穏やかな新年を迎えることができました。

当院には、救命救急センターと地域がん診療連携拠点病院という2つの大きな使命がございます。ご紹介いただきました患者さまのご希望に添った、最善の診療を提供して行きたいと考えています。

救急医療では、「24時間365日、断らない救急医療」をスローガンに、救急車・救急への受入れはもちろん、ご紹介いただいた患者さまへの、迅速で正確な診断と治療を心がけています。

がん診療では、できるだけ低侵襲な内視鏡手術、家から通える外来化学療法、ピンポイントな放射線治療、さらにこれらの治療を組み合わせ、患者さまに寄り添った優しい診療を心がけています。

今年も、この2つを当院の大きな柱として、登録医の先生方、地域の医療機関と共に熊本県の医療に貢献できますよう努力してまいります所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「くまもと在宅クリニック 診療を開始しました」

くまもと在宅クリニック  
院長 阿部 真也



初めまして。阿部真也と申します。このたびくまもと在宅クリニックを開設させていただきましたのでご紹介いたします。くまもと在宅クリニックは、平成29年11月1日に開院した診療所です。水前寺6丁目：県庁東門近くにあり、訪問診療を中心に行っております。標榜科目は、内科、外科、緩和ケア内科です。悪性疾患から良性疾患まで幅広く診療したいと思っています。これまでは外科診療を中心に、がん診療に従事して参りましたので、診療所でも在

宅緩和ケア（在宅ホスピスケア）には特に力を入れて行くつもりです。

診療所から車でおおむね30分圏内を診療範囲としています。ご相談やご依頼の際は、お気軽にお電話下さい(096-381-1100)。迅速な対応を心がけています。またホームページ(<http://kumamoto-zaitaku.clinic>)もありますのでご参照頂きますと幸いです。皆様から親しまれ、信頼されるクリニックを目指して頑張っていきますので、ご指導よろしくお願い致します。以前は上熊本にありますイエズスの聖心病院に勤務しておりました。その際は熊本医療センターの先生方から多くの患者さんをご紹介していただきました。また緩和ケア回診にも時折参加させていただきましたこと、大変感謝しております。これからは在宅医療を通じてくまもとの皆様に貢献していきたいと考えておりますので、今後ともお付き合いのほど何卒宜しくお願い申し上げます。



## 平成29年度 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

### 第2回開放型病院連絡会は2月24日（土）に決定しました！

12月4日（月）、当院会議室にて今年度第2回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会会長の福島敬祐先生（当協議会委員長）、理事の家村明日朗先生にご出席いただきました。高橋院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成29年度第2回開放型病院連絡会を、平成30年2月24日（土）午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催することを決定しました。第2回開放型病院連絡会は、総会と特別講演の2部構成となっています。総会では、症例提示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、引き続き特別講演を行います。特別講演は、「我が国の医療安全施策の動向」をテーマに、厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長 名越 究先生にご講演を頂きます。

当院もさらに内容の充実に努めて、地域の医療機関

#### 第44回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成30年2月24日（土） 午後6時30分  
場所：地域医療研修センターホール（当院2F）

#### － 内 容 －

- 1 症例提示
- 2 地域医療連携室・紹介予約センターからのお知らせ
- 3 特別講演「我が国の医療安全施策の動向」  
厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長  
名越 究 先生

#### 【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課  
電話 096-353-6501 内線2311（福田・毛利）

の皆さまと連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。（管理課長 福田 信也）

## 新年及び転任のご挨拶

事務部長

うえまつ ひろし  
植松 裕



新年あけましておめでとうございます。

1月1日付で九州がんセンターより転任して参りました植松でございます。

前任の事務部長同様、一生懸命に頑張ってお参りますので、よろしくお願いたします。

本年度は、診療報酬改定の年でもあり、また病院の増改修工事も竣工を控えた年です。積極的な診療報酬改定に向けた取組みができるよう、また安全第一に工事が無事竣工いたしますよう、微力ながら努力いたしますので、よろしくお願いたします。

## 「退任に際して、感謝の思いを込めて」

事務部長

うちだ まさあき  
内田 正秋



新年明けましておめでとうございます。

この度、1月1日付で九州医療センターに転勤することとなりました。

平成26年（2014年）4月に赴任し、3年9ヶ月の勤務でした。ある元院長先生に酒の席で「熊病の歴代事務部長の中で最長の勤務だったね。ご苦労さん」と労いのお言葉を頂きました。実は、私自身事務部長職となり初めての勤務でしたが、たくさんの方に支えられ頑張ることができました。ありがとうございました。大きな出来事としましては、熊本地震をはじめ色々ありましたが、どんな場面でもたくさんの方に支えられました。

家族が国立熊本病院時代に患者としてお世話になり、そのことがあって国立病院勤務の道を選び、恩返しをと志しました。事務職としても、何らかの恩返しができるものと頑張ってお参りました。今般、念願だった故郷熊本で勤務ができ、最初で最後のチャンスをいただき、自分にできることは、少しはやれたかな、と思います。

熊本医療センターに勤務して感じたことは、決して派手ではなく地味であること、救急医療を全職員が自覚し、医療だけでなく患者本位、職員本位を目指し、病院環境整備も業務改善等も理解と協力が得られ同じ方向を向いているということ。素朴で人間味のある人達の集団だということです。まさに、「この日、この時、この場所で、このメンバーと勤務ができたこと」に誇りを持ち、感謝を申し上げます。

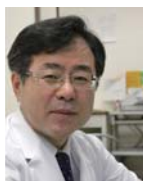
早いものであつという間に、退任の日を迎えました。職員の皆様、委託業者の皆様、ボランティアの皆様、開業医の先生方、大変お世話になりありがとうございました。

最後に、国立病院機構の古都副理事長が来院され、講演の際に話された『坂村眞民氏の詩』をご紹介し、退任に際しての御礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。熊本医療センターの益々のご発展をお祈りいたします。

【あとからくる者のために】

『あとからくる者のために田畑を耕し種を用意しておくのだ。山や川や海をきれいにしておくのだ。ああ、あとからくる者のために、苦労をし我慢をし、みなそれぞれの力を傾けるのだ。あとからあとから続いてくるあの可愛い者たちのために、みなそれぞれ自分にできる何かをしてゆくのだ。』

## 診療部長就任のご挨拶



診療部長 消化器内科部長  
すぎ かずひろ  
杉 和洋

新年明けましておめでとうございます。平成29年12月1日付で診療部長を拝命いたしました。これまでは消化器内科部長として皆様からご紹介いただきました数多くの患者様を中心として消化器疾患を専門に診療に邁進してまいり

ました。今後は高橋毅院長のもと、さらにブラッシュアップした消化器疾患診療はもとより、医療連携、病薬連携をさらに発展させるとともに、クリティカルパスを活用したチーム医療の実践と医療の質の向上、開かれた医療環境を目指して微力ながら熊本県の医療に貢献できるように尽力したい思いで一杯です。そして何よりも患者の皆様へ安心・安全な医療を実感していただけるためのより良い環境づくりに取り組みたいと思います。くまびょう関係の皆様にはこれまで以上にご支援・ご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



診療部長 整形外科部長  
はしもと のぶろう  
橋本 伸朗

このたび、高橋毅院長より昨年12月1日付けで診療部長を拝命いたしましたので、ご挨拶を申し上げます。私は平成5年7月に当病院に赴任以来、野村一俊前副院長・福元哲也医長をはじめとする優秀なスタッフに助けられて、20数年間、病院運営には全く無頓着なまま患者様の診療に専念する我が儘を許されてまいりました。「そろそろ病院のために尽くすように」と諭されたのだと理解しております。

赴任したころは、ちょうど当院が救急医療を立ち上げた時期でしたのでさまざまな経験をさせていただきましたが、なかでも当院のような救急病院は病診・病病連携なしには全く成り立たないということを学んでまいりました。特に、先の熊本地震は医療連携に対する究極の試練であったと思いますが、それぞれの施設が極限の状況にあるなか、ストレスをストレスと感じないまま多くの患者様の医療連携を行うことができたように思います。これも常日頃多くの患者様を御紹介いただき、また逆紹介をお引き受け下さる諸先生方のご協力の賜と深謝いたします。非力ではありますがこれからも医療連携に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

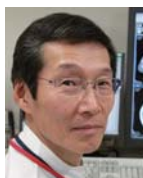


診療部長 外科部長  
みや なり のぶとも  
宮成 信友

昨年12月から診療部長を拝命しました外科の宮成です。わたくしは2008年4月に熊本大学病院消化器外科より当院へ異動となりました。当時は外科の先輩として池井院長、片淵副院長、芳賀臨床研究部長が在籍していましたが、この10年間に退官、他病院の院長ご就任等で異動されました。月日が過ぎるのは早いと実感しております。断らない医療

を実践し、外科医の人員は減少するばかりで増えません、外科手術症例は赴任当時の約700症例から1,000例を超えるまでになっています。技量の向上と後進の指導をモチベーションに診療を行ってきました。外科スタッフも現状に満足することなく診療の質を上げるように頑張っています。診療実績が向上しても、個々の負担が増加するばかりでは長続きしないのではないかと考えています。

各診療科も様々な問題を抱えていると思います。今後それらが少しでも改善されるように努力したいと思います。今後も、病院の診療実績が良くなるように貢献していきたいと思っています。



診療部長 放射線科部長  
よしまつ しゅんじ  
吉松 俊治

医療情報担当の診療部長を拝命いたしました。平成30年度中に、6年間稼動した電子カルテシステム（HOPE/EG MAIN-GX）のリプレースを行う予定です。現在、仕様書を作成し電子カルテベンダーの選定中です。また、新外来棟の完成と国立病院機構の新IT基盤構築（新Hospnet構築）

が同時期になる予定です。電子カルテ端末と情報系端末の増設と、新たなネットワークが構築されます。病院機能評価（3rdG：Ver.2.0）の受審も予定されています。多忙な1年となりそうです。

放射線科では、新しいCT装置2台が更新されます。低被ばくCT装置で撮影すると胸部撮影では単純X線撮影とほとんど変わらない被ばく線量で撮影可能となります。また、急性期脳梗塞がMRI拡散強調像に近い画像で得られます。日常診療ならびに救急診療にてかなり威力を發揮しそうです。ご活用のほどよろしくお願い致します。

## 国立病院総合医学会が開催されました

2017年11月10日から11日、香川県高松市において第71回国立病院総合医学会が開催されました。この学会は全国の国立病院機構職員が一堂に会し、様々な問題やアイデアを話し合う絶好の機会となっています。今回の会場となった香川県は瀬戸内海国立公園に面しており、源平合戦の那須与一の扇が漂着したとされる男木島や鬼ヶ島とも呼ばれる女木島など数々の島が点在しています。また1988年に開通した本州四国連絡橋の瀬戸大橋で岡山と結ばれています。今回の学会テーマは“道—明日へ—国立医療の未来を拓く”で、特別講演として愛媛出身のノーベル賞受賞者である中村修二カリフォルニア大学教授が招かれLED開発にまつわる苦労話や、日米の研究環境の違いについて講演していただきました。



学会のテーマ

また公開市民講座として高知県出身のリオパラリンピックメダリストの池 透暢さんが講演されました。当院からは様々な職種から43題の症例・研究発表を行うなど、多くの職員が参加し活発に議論いたしました。  
(臨床研究部長 日高 道弘)

## 「二の丸会」が開催されました

11月25日（土）にANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて平成29年度二の丸会が開催されました。

総会は、蟻田功前会長のご挨拶から始まり、会計報告、東家監事より会計監査報告が行われました。続いて、会則の変更、それに伴う役員の変更が承認、報告されました。宮崎久義 新会長にご挨拶いただき、最後に高橋院長から病院状況報告が行われました。

引き続き会場を移して、宮崎久義 新会長より、今までご尽力された旧役員の皆様に、推戴式として感謝状の授与が行われました。その後、池井聰様のご乾杯の発声により、230名余りでの懇親会が始まりました。懇親会はスタートからゆっくりとご歓談いただき、午後8時過ぎから二の丸会恒例の新人紹介を行いました。当日の出席者のうち、前回の二の丸会以降当院で勤務することになった76名の紹介が行われました。最後に



蟻田功前会長のご挨拶の様子

河野文夫様から閉会のご挨拶をいただき、二の丸会を無事終了することができました。

この二の丸会は、旧職員と現職員の親睦を図るための貴重な場となっており、ご出席いただいた多数の先輩方とも有意義な時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。  
(庶務班長 毛利 安則)

## 「ひまわり会」が開催されました

11月14日に泌尿器科尿路変更術患者会「ひまわり会」を開催し、約30名の患者様やご家族が参加されました。ひまわり会は平成7年に立ち上げ、年2回開催しています。会員数は現在約80名です。



ひまわり会 会場の様子

今回は、いつもの講義形式ではなく、6つのグループに分かれ、泌尿器科医師7名、看護師7名も参加し、意見交換会を行いました。テーマを「入浴」「睡眠」「運動」とし、日常生活の問題点や工夫点などを話し、自宅ですぐに活かせる内容でとても有意義な会となりました。

今回行った意見交換会は初めての試みでしたが、患者さんからも「非常によかった。またこのような会をしてもらいたい。」と嬉しいお言葉を頂きました。

今後も患者様にとって健康維持や親睦などお役に立てるような会を運営していきたいと考えています。

(5 西病棟看護師 本多恭子)

# 第23回 国立病院機構熊本医療センター医学会プログラム

平成30年 1月20日 (土)

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

(例年とは会場が違います。ご注意ください。)

## 開会の辞

高橋 毅 (国立病院機構熊本医療センター院長)

8:50~9:00

## 一般演題 I 「内科系・メディカルスタッフ部門」

9:00~10:10

座長：河北 敏郎 (国立病院機構熊本医療センター血液内科医長)

池田としえ (国立病院機構熊本医療センター 5 西病棟看護師長)

### I-1 メトトレキサート (MTX) 内服により汎血球減少を来した一例

血液内科<sup>1)</sup> 整形外科<sup>2)</sup> 杉谷浩規<sup>1)</sup> 三井士和<sup>1)</sup> 平井奉博<sup>2)</sup> 河北敏郎<sup>1)</sup> 日高道弘<sup>1)</sup>

### I-2 ポナチニブ併用hyper-CVADにて良好な経過を得た再発フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病 (Ph+ALL) の二例

血液内科 村上栄敏 山口俊一朗

### I-3 血糖コントロール不良にインスリン注射による皮下腫瘍の関与が示唆された一例

糖尿病・内分泌内科<sup>1)</sup> 院長<sup>3)</sup> 渡邊拓郎<sup>1)</sup> 小野恵子<sup>1)</sup> 木下博之<sup>1)</sup> 橋本章子<sup>1)</sup> 豊永哲至<sup>2)</sup>

菊池郡市医師会立病院<sup>2)</sup> 高橋 毅<sup>3)</sup> 西川武志<sup>1)</sup>

### I-4 腹膜透析後の被嚢性腹膜硬化症

腎臓内科 大淵 昂 山本紗友梨 梶原奈央 中村朋文 梶原健吾

富田正郎

### I-5 脳幹梗塞の診断で紹介され、clinically isolated syndromeと考えられた1例

神経内科 岡田匡充 村上慶高 西 晋輔 田北智裕

### I-6 ドパミントランスポータ (DaT) イメージングにおける平滑化フィルタ処理条件と画質および位置分解能に関する検討

診療放射線科<sup>1)</sup> 済生会病院<sup>2)</sup> 井上信哉<sup>1)</sup> 永田智信<sup>2)</sup> 野口輝也<sup>3)</sup> 大野和弘<sup>4)</sup>

熊本地域医療センター<sup>3)</sup> 白川裕一<sup>5)</sup> 亀崎亮祐<sup>5)</sup>

魚住クリニック<sup>4)</sup> 熊本大学病院<sup>5)</sup>

### I-7 自動トラッキングを利用した仮想透視画像作成の検討

診療放射線科 深松昌博 尾崎慎哉 竹尾晃一 平田美月 古川則行

## 一般演題Ⅱ 「外科系・その他の診療部門」

10:15~11:05

座長：金澤 親良先生（青磁野リハビリテーション病院院長）

田中富美子（国立病院機構熊本医療センター地域医療連携係長）

### Ⅱ-1 当院における喉頭鏡の現状とディスポ型喉頭鏡の導入について

麻酔科<sup>1)</sup> 医療安全管理室<sup>2)</sup> 岩村一輝<sup>1)</sup> 小松修治<sup>1)</sup> 松川豪策<sup>1)</sup> 柚留木朋子<sup>1)</sup> 入江知恵子<sup>1)</sup>  
 古園大気<sup>1)</sup> 近藤きりこ<sup>1)</sup> 宮崎直樹<sup>1)</sup> 古庄千代<sup>1)</sup> 瀧賢一郎<sup>1)</sup>  
 岩崎伊代<sup>1)</sup> 堂園千代子<sup>2)</sup>

### Ⅱ-2 右手デグロービング外傷に対して逆行性前腕皮弁で再建し良好な経過を得た1例

形成外科 東野哲志 大島秀男 上木原達哉

### Ⅱ-3 急性硬膜下血腫に対する局所麻酔下穿頭術と全身麻酔下開頭術の比較検討

脳神経外科<sup>1)</sup> 熊本市立植木病院<sup>2)</sup> 松浦 任<sup>1)</sup> 大塚忠弘<sup>1)</sup> 坪田誠之<sup>1)</sup> 中川隆志<sup>1)</sup> 吉里公夫<sup>2)</sup>

### Ⅱ-4 非対称性両股関節脱臼の治療経験

整形外科 吉村直人 橋本伸朗 福元哲也 前田 智 中馬東彦  
 松下任彦 平井奉博 松原秀太

### Ⅱ-5 当院の脳血管障害患者に対する高次脳機能障害の調査

リハビリテーション科 鬼塚由大 安東拓美 石原亮一 宮川恵輔 吉永龍史 藤原崇光  
 手光文子 林田祐醜 金柿夏美 藤木真倫子 鶴田紫央里 高野雅弘

## 一般演題Ⅲ 「事務系・薬剤・メディカルスタッフ部門」

11:10~12:10

座長：高武 嘉道（国立病院機構熊本医療センター治験主任薬剤師）

福田 信也（国立病院機構熊本医療センター管理課長）

### Ⅲ-1 医業未収金の縮減に向けた取組

事務部 企画課 財務管理係 友成優理奈 村川友理 野村彩乃

### Ⅲ-2 だし（うま味成分）の有効利用について

栄養管理室<sup>1)</sup> 院長<sup>2)</sup> 山下晶穂<sup>1)</sup> 北向由佳<sup>1)</sup> 北村 渚<sup>1)</sup> 志岐歩美<sup>1)</sup> 関塚 結<sup>1)</sup>  
 今村美咲<sup>1)</sup> 平江由里<sup>1)</sup> 阪野未都子<sup>1)</sup> 梅本保奈美<sup>1)</sup> 四元有吏<sup>1)</sup>  
 高橋 毅<sup>2)</sup>

### Ⅲ-3 当院透析室にて発生する対応困難要因に関する考察～精神障害を有する人工透析患者と透析室～

医療社会事業専門員<sup>1)</sup> 地域医療連携室長<sup>2)</sup> 新開貴夫<sup>1)</sup> 渡邊健次郎<sup>2)</sup> 西迫はづき<sup>1)</sup> 村上良子<sup>1)</sup> 坂本陽子<sup>1)</sup>  
 地域医療連携室係長<sup>3)</sup> 腎臓内科医師<sup>4)</sup> 安藤秀隆<sup>1)</sup> 三浦由江<sup>1)</sup> 立花律子<sup>1)</sup> 田中富美子<sup>3)</sup> 梶原奈央<sup>4)</sup>  
 5 西病棟師長<sup>5)</sup> 臨床工学技士<sup>6)</sup> 池田としえ<sup>5)</sup> 竹本勇介<sup>6)</sup>

### Ⅲ-4 精神科診療における医師事務作業補助者の役割

統括診療部<sup>1)</sup> 朝日野総合病院 院長補佐<sup>2)</sup> 竹下喜代美<sup>1)</sup> 片渕 茂<sup>2)</sup> 園田美樹<sup>3)</sup> 鈴谷文子<sup>1)</sup> 宇野克明<sup>4)</sup>  
 総合情報センター部<sup>3)</sup> 精神科<sup>4)</sup> 増田一樹<sup>4)</sup> 後藤純一<sup>4)</sup> 橋本 聡<sup>4)</sup> 山下建昭<sup>4)</sup> 清川哲志<sup>5)</sup>  
 副院長<sup>5)</sup> 統括診療部長<sup>6)</sup> 渡邊健次郎<sup>6)</sup>

### Ⅲ-5 薬剤師外来の取り組み

薬剤部 大橋邦央 鶴崎泰史 中川義浩

### Ⅲ-6 腸炎治療中に発見されたCMLの一例

臨床検査科 高瀬 泉 大野剛史 藤崎 恵 福田 勝 永田栄二

## 昼 食 (12:10~13:10)

### 一般演題Ⅳ 「看護・教育部門」

13:10~14:00

座長：一柳明日香（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校教員）

川邑 佳春（国立病院機構熊本医療センター7南病棟看護師長）

#### Ⅳ-1 新規採用オムツと2種類の尿取りパッドの特徴を活かした取り組み

看護部 7北病棟 藤川美和 上田緋沙美 田渕 宏 山田里香

#### Ⅳ-2 看護業務量調査を基に行った業務改善の効果

看護部 看護業務検討委員会 宇野美里 小山美香 松永智樹子

#### Ⅳ-3 多職種による環境ラウンドの取り組み報告

看護部 感染管理認定看護師 田代里美 益田洋子 末永 慎 奥田美良

#### Ⅳ-4 手術予定患者の禁煙指導に入院支援室が介入してー入院支援室で行う禁煙指導の課題ー

看護部 入院支援室 松田真奈美 野口裕美 児玉佐智美 中林順子 田中富美子

#### Ⅳ-5 看護学生のリスク感性測定尺度を用いたリスク感性の学年別比較

附属看護学校 高木佳寿美

### 一般演題Ⅴ 「感覚器・その他の診療部門」

14:05~15:05

座長：筒井順一郎（国立病院機構熊本医療センター眼科医長）

田之上美紀（国立病院機構熊本医療センター7東病棟看護師長）

#### Ⅴ-1 栄養欠乏性視神経症が疑われた症例

眼科 福島巨希 宮崎洋子 筒井順一郎

#### Ⅴ-2 当科における入院食物経口負荷試験のまとめ

小児科 平井奈美 緒方美佳 森永信吾 水上智之

#### Ⅴ-3 神経サルコイドーシスにより精神変調を来し、ステロイド療法が著効した一例

精神科 増田一樹 宇野克明 後藤純一 橋本 聡 山下建昭 渡邊健次郎



## V-4 当科における溶連菌感染に伴う皮膚疾患の検討

皮膚科 城野剛充 田中憲一郎 前原志野 牧野公治

## V-5 当院救命救急センターにおける泌尿器科疾患の臨床的検討

泌尿器科 西澤秀和 前田喜寛 鮫島智洋 銘苺晋吾 二口芳樹  
陣内良映 土岐直隆 菊川浩明

## V-5 緩和ケアチームにおける歯科介入

歯科口腔外科 中尾美文 谷口広祐 古園大気 清宮弘康 森久美子 中島 健

## 一般演題VI 「救急・内科系・その他の診療部門」

15:10~16:00

座長：小山 研一先生（小山内科クリニック院長）

沖田 典子（国立病院機構熊本医療センター救命救急看護師長）

## VI-1 当院における硬膜外膿瘍症例の検討

救命救急科<sup>1)</sup> 院長<sup>2)</sup> 井手口拓弥<sup>1)</sup> 山下幾太郎<sup>1)</sup> 江良 正<sup>1)</sup> 狩野亘平<sup>1)</sup> 山田 周<sup>1)</sup>  
北田真己<sup>1)</sup> 櫻井聖大<sup>1)</sup> 原田正公<sup>1)</sup> 高橋 毅<sup>2)</sup>

## VI-2 シベンゾリン中毒に対してOn-Line HDFを施行した1例

臨床工学技士<sup>1)</sup> 腎臓内科<sup>2)</sup> 竹本勇介<sup>1)</sup> 清元 玲<sup>1)</sup> 久原亮希<sup>1)</sup> 松下尚暉<sup>1)</sup> 佐藤朋哉<sup>1)</sup>  
田代博崇<sup>1)</sup> 山本紗友梨<sup>2)</sup> 梶原奈央<sup>2)</sup> 中村朋文<sup>2)</sup> 梶原健吾<sup>2)</sup>  
富田正郎<sup>2)</sup>

## VI-3 胆石性イレウス

消化器内科<sup>1)</sup> 外科<sup>2)</sup> 田尻拓哉<sup>1)</sup> 後藤知由<sup>1)</sup> 松山太一<sup>1)</sup> 富口 純<sup>1)</sup> 久木山直貴<sup>1)</sup>  
中垣貴志<sup>1)</sup> 石井将太郎<sup>1)</sup> 浦田昌幸<sup>1)</sup> 中田成紀<sup>1)</sup> 杉 和洋<sup>1)</sup>  
美馬浩介<sup>2)</sup> 宮成信友<sup>2)</sup>

## VI-4 精神的ストレスを誘因としたたこつぼ型心筋症の一例

循環器内科 大野健翔 山田敏寛 片山哲治 松原純一 松川将三  
宮尾雄治 藤本和輝

## VI-5 バリウム様の高濃度便による大腸穿孔の1例

放射線科 幸村紘子 吉松俊治 浅尾千秋 伊藤加奈子 富高悦司 根岸孝典  
岩下孝弥 渡壁孝弘

## 総評・閉会の辞

清川 哲志（国立病院機構熊本医療センター副院長）

16:05

## ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

今年も11月27日から12月1日まで米国よりジェフリー・ヘーゲン先生をお迎えし、北米型レジデント研修を研修医対象に開催して頂きました。研修医1年目は2回目、2年目は3回目の北米型レジデント研修となり、前回より密度の濃い研修にしようと、準備を進めてまいりました。ヘーゲン先生を筆頭に、ファシリテーターの先生方には、1年目の症例発表、2年目の病棟回診と全ての私達のプレゼンテーションに対して熱心にフィードバックをしていただきました。また、米国での最新のロボット手術、外傷に関する講演をしていただき、世界における最先端の医療技術に関してご教授いただきました。このような経験をできる研修医は日本全国においても稀と思われれます。近い将来、国際学会等で発表する際に、この研修で吸収したものを発揮できればと思ってお



ヘーゲン先生と記念撮影

ります。また、この場をかりて、この研修を開催するにあたり時間を割いてくださった全ての先生方、事務の方々にお礼を申し上げます。来年以降の研修がよりよいものになることを期待しています。

(2年次研修医 古本高文)

## 病院増改修整備工事の進捗状況

10月から始まった杭打ち工事もようやく12月末で終了する見込みです。1月からはいよいよ建物の建築が始まります。この工程では現地に大型のタワークレーンが設置されます。

本格的な建築作業の開始に伴い、駐車場を資材置き場として利用する必要があるため、1月中旬からは現在よりも更に駐車スペースを制限することとなります。

皆さま方へはご不便をおかけしているところ、更にご迷惑をお掛けすることとなり申し訳ありませんが、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(業務班長 安藤隆幸)

### <今後のスケジュール予定>

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月(終了)
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)



本杭打ち工事の様子

## 地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693**

月～金(祝日を除く) AM 8:30～PM 17:00



最近のトピックス

歯科口腔外科の最新機材

歯科口腔外科

清宮 弘康 中島 健



手術風景

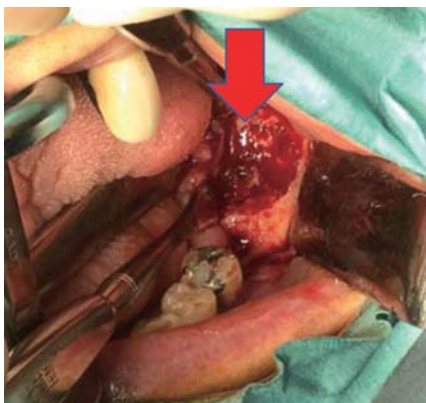
歯科口腔外科は、一般歯科では困難な抜歯や全身麻酔、入院加療が必要な口腔腫瘍、口腔領域の感染症、顎骨骨折などの口腔外科疾患を中心に診療を行っています。

今回は、本年より当科に導入しました口腔内蛍光観察装置VELscope® Vx（ベルスコープ）を用いた診査、手術への応用についてご紹介させていただきます。VELscope®は、1990年代半ばより肺、子宮頸管部、口腔内の蛍光観察の実用化を目的に研究開発がスタートし、2006年北米で初めて市場導入されました。主に、口腔粘膜の異常、前癌病変及び口腔がんを発見する手段の一つとして海外で多く利用されています。当科では、通常の外来診療において、前癌病変、悪性病変の変化、範囲を評価するために使用しています。また手術に際しては、舌、頬粘膜などの粘膜病変の切除範囲を決定する際に、参考にしていきます。さらには、いままです手術範囲の決定に苦慮していた顎骨骨髓炎の治療に応用しています。顎骨骨髓炎において、抗菌薬治療に不応なケースは、手術療法を選択されることが多いのですが、骨髓炎の特徴として疾患の範囲がはっきり

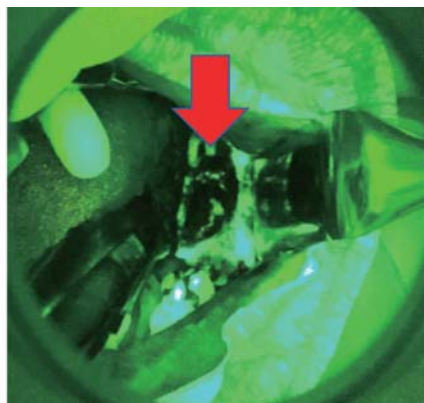
せず、手術を行っても、再発するケースなどがあり、難治性の経過をたどるケースが少なくありません。しかし、近年、骨蛍光標識に使用されるテトラサイクリン系の抗菌薬であるミノマイシンの性質を利用し、骨髄炎の手術に利用する報告が見られ始めました。ミノマイシンを1ヵ月以上内服した状態で、手術に臨み、手術部位をVELscope® Vxで確認しながら、リアルタイムで切除・搔爬範囲を決定することができます。当科でも最近増加してきた薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）における全身麻酔下の手術において、実際に術者がVELscope® Vxを通して、切除搔爬範囲を決定し、手術をしています。術者の経験値、臨床の勘に頼っていた手術が、客観的かつ正確に行うことができるようになりました。まだ症例数も少なく、今後も引き続き検討が必要ではありますが、非常に有益なツールであると考えています。



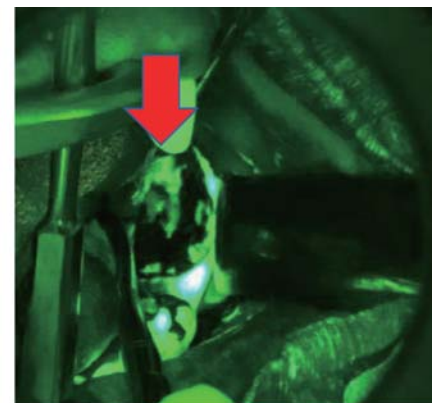
VELscope® Vx



下顎骨髄炎口腔内写真



VELscope® Vx像 搔爬前  
※黒い部分が骨髄炎



VELscope® Vx像 搔爬後  
※黒い部分が白く発色するまで搔爬する

## 研修医レポート

### 臨床研修医

むらかみ あきら  
村上 瑛



こんにちは。研修医1年目の村上瑛です。

熊本大学を卒業し、今年の4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。スタッフの皆様へ迷惑をかけながら徐々にできることが増えていっています。いつも感謝が止まりません。

最初に研修させていただいた腎臓内科では、正直、電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることに精一杯でした。その中でも、指導医の先生をはじめ研修医の先輩方やスタッフの方々が、お忙しい業務の合間を見つけては、何もわかっていない私を熱心に指導してくださいました。重症の患者さんを前に自分の無力さに打ちひしがれてばかりでしたが、

多くの経験を積ませていただきました。

循環器内科では、心筋梗塞や狭心症、深部静脈血栓症など様々な症例を経験し、心電図の判読や心臓エコー検査、心臓カテーテル検査やPCIなど専門的な治療を研修させていただきました。とてもとても勉強になりました。

腫瘍内科では、抗がん剤というとても複雑な治療法とその副作用対策を研修させていただきました。診断できても、治療法の選択や治療効果判定ができて初めて治療が行えるということを改めて認識させていただきました。

外科では、数多くの手術を経験させていただきました。手術の流れだけではなく術後の管理なども学ばせていただき、充実した研修となりました。

現在の研修中の麻酔科では、患者さんのバイタル等の状態の変化に対し、自らで考えて対応する機会が多く、緊張感をもって研修させていただいております。これからも様々な方にご迷惑をおかけすると思いますが一つ一つ物事を身に着けお役に立つことができるよう努力いたします。どうぞご指導のほどよろしくお願い致します。

### 臨床研修医

むらかみ ひでとし  
村上 栄敏



こんにちは。研修医1年目の村上栄敏と申します。

久留米大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から8か月が経ちますが、まだまだ診療や日々の業務についてわからないことが多く、スタッフのみなさんにご迷惑をおかけしながら精一杯日々を送っています。

4月に救命救急部から研修をスタートし、消化器内科、外科、麻酔科、そして現在は血液内科にて研修をさせてもらっています。

最初は電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることで精一杯でした。断らない救急を実践している当院の救急部は、研修始まってすぐの私にとって非常にハードに感じましたが、何もわから

ない自分を、指導医の先生をはじめスタッフ、研修医の先輩方が熱心に指導して下さり、何とか一通りこなせるようになりました。また、様々な疾患を経験することができ、大変勉強になりました。研修医として日々の診療に取り組んでいく中で、このような素晴らしい環境で研修させていただけるのは本当に恵まれていると思ひ、少しでも貢献できるように努力していこうと決意した4月でした。

現在は血液内科で研修を行っています。白血病やリンパ腫が主ですが、血液内科領域のことだけでなく、感染症、心不全などの病態を合併している例も多く、勉強しなければならないことが山積みであると、科が変わる毎に努力不足を痛感します。

また、学会やMGH、北米型レジデント研修など発表の機会も多く、その度に周りの先生方から熱心なご指導を頂き、充実した研修を送らせていただいております。この先まだまだご迷惑をおかけすると思いますが、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

# 研修のご案内

## 第227回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年1月15日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。  
「第1症例 呼吸器内科からの症例呈示」  
国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮  
「第2症例 血糖コントロール不良にインスリン注射による皮下腫瘍の関与が示唆された1例」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 渡邊拓郎
2. ミニレクチャー「頭痛診療について」  
国立病院機構熊本医療センター神経内科 村上慶高

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

## 第8回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2単位認定〕

日時▶平成30年1月20日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：宮本外科・消化器内科 院長 宮本大典 先生

演題：「皮膚がんの基本と最前線」

1. 皮膚がんの基本とよく見る皮膚がん  
国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治
2. メラノーマの診断と最新の治療  
熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学分野准教授 福島 聡 先生
3. 皮膚のリンパ腫と肉腫  
国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 城野剛充

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

## 第129回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年1月24日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ『意識障害を呈した80代女性の甲状腺機能低下症』（80代 女性）  
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 小野恵子  
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山寿彦

「甲状腺機能低下症を既往に持つ80代女性が意識障害で入院となった」

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

## 第191回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成30年1月25日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「周術期血糖管理における人工膵島の活用」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 山村理仁
2. 「糖代謝異常とアルドステロン」  
熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学 助教 河島 淳司 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501（代表）内線5441

# 2018年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室
1日(月)		
2日(火)		
3日(水)		
4日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「不明熱の考え方」 国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長 辻 隆宏	
5日(金)		
6日(土)		16:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
7日(日)		
8日(月)		
9日(火)		
10日(水)	18:00~19:30 第108回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
11日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「がん症状の緩和」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部 博隆 18:30~20:00 第41回 熊本がんフォーラム	
12日(金)		
13日(土)		
14日(日)		
15日(月)		19:00~20:30 第227回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
16日(火)		
17日(水)		
18日(木)		
19日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」
20日(土)	15:00~17:30 第8回 診断と治療—最新の基礎公開講座— 「皮膚がんの基本と最前線」 [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 宮本外科・消化器内科 院長 宮本 大典 先生 1. 皮膚がんの基本とよく見る皮膚がん 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治 2. メラノーマの診断と最新の治療 熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学分野准教授 福島 聡 先生 3. 皮膚のリンパ腫と肉腫 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 城野 剛充	
21日(日)		
22日(月)		
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
24日(水)	19:00~20:30 第129回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
25日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「緊急放射線治療」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高 悦司 14:00~15:00 第58回 市民公開講座 「正常圧水頭症について」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 坪田 誠之 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会〈細胞診月例会・症例検討会〉 19:00~21:00 摂食嚥下特別講演会 「簡単に取り組める摂食嚥下障害の評価と訓練」 座長 熊本保健科学大学言語聴覚学専攻講師 宮本 恵美 先生 広島国際大学総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚士 福岡 達之 先生	19:00~20:45 第191回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
26日(金)		
27日(土)		
28日(日)		
29日(月)		
30日(火)		
31日(水)		

研1~3 2階研修室1~3

 ※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)